日本産業技術史学会2019年度第2回理事会議事録

日　時：2019年10月６日（金）　14：00～16:00

場　所：東京大学文学部　日本史学研究室

出席者：麓和善，廣田義人，鈴木淳，堀尾尚志，田中一郎，石村眞一，天野雅敏，平野恭平，武藤夕佳里，馬渕浩一，市川浩，亀井修

欠　席：橋本毅彦，夏目賢一，山田大隆

報　告

1.本会運営の状況（財務・会費納入状況等）について

廣田理事より，資料に基づいて，説明があった。
・会費の納入が遅れ気味であるが，それ以外は概ね順調である。

2.本会運営の状況（会員の動向等）について

廣田理事より，会員の入会，退会の状況について説明があった。
・2017年名簿137名より減少し現在130名。新入会者もあるがご逝去された方も有り減少した。

3.会誌（冊子版）の編集及び発行予定について

　田中理事より，22巻2号の編集状況について説明があった。
・査読論文3本，書評2本の掲載を予定している。10〜11月初旬に発行。日付は10月。送付時期は他の送付物と合わせて調整。
・次号は春，論文は予定２本，その他２本の計４本。64ページ以上にする必要あり。

4.会誌（電子版）の編集及び配信予定について

　石村理事より説明があった。
・再投稿があって掲載した。

5.ホームページ及び『さんぱく』の担当者の交代について

　・堀尾理事，廣田理事から麓会長・名工大・濱田准教授，馬渕理事に交代。
・さんぱく92号：今回はメール添付で配信した。希望の人へは郵送。今後はBCCで送る。

6.その他

　なし。

議　事

1.　2020年度の年会開催予定地について

鈴木理事より，会場を東大から富岡製糸場に変更する案が，資料に基づいて説明され，了承した。
・日程は2020/6/20-21，2020/6/27-28あたりか（その後、6/20-21で決定）。
・案例：初日の午後から見学会，夜理事会，翌日１日かけてシンポジウム・発表・総会，その日の夜に懇親会。
・富岡市民の方にも聞いてもらえる機会が提供できないか。テーマ設定も場に即したものにしてはどうか。何が大事か何を残すかを検討しながら，従来の社寺建築とは違う修復方法を決めたこと，などが考えられる。
・その地方の新聞社とテレビ局に流す。
・産業技術史的視点であればよいのではないか。利活用の提案も可能ではないか。賛否あり。進行中のものについて否定的なことは主張しないほうがよいのではないか。

2.　第19期役員選挙について

麓会長，廣田理事から説明があり，了承した。
・選挙管理委員会２名，井上氏と株本氏あるいは田口氏に依頼する。事務局の廣田理事との連携に考慮する。その後，告示を次の『さんぱく』（11月号）に載せ，前例を踏襲して進める。

3.　組織拡大について
石村理事より，資料に基づいて説明があり，議論した。
・あの手この手を繰り返す。魅力的な研究が重要ではないか。論文の数で勝負。学際領域にいる人間にとっては魅力的である。多様なことが学際的なこと。
・データを集めて論議してはどうか，大学院生で研究者志望が激減している。大学院は，中国人と退職者で成り立っていく時代の，学会経営の視点が必要。学会員や活動が縮小するのはやむを得ないことである。技術史系の学会を糾合して行くことが必要である。欧文誌が必要，日本語で書いても研究者評価にならない。
・縮小に耐えるレジリエンスという視点での検討も必要ではないか。

4.　その他

　運営体制強化のため「事務局長」を正式に決める。現在，事務局を大阪工業大学知的財産学部 廣田研究室に設置しているが，廣田理事は副会長である。将来的には事務局の移転も検討する必要があるが，当面は廣田理事に副会長と事務局長を兼任していただくこととした。